



卒

業式の日、四二六人が笑顔でファーマー・フィールド・スクールの卒業証書を手にししました。約一年半のスキルを無事終了し、州農業局にファーマー・エキスパートとして認められた農家の人たちです。

ファーマー・フィールド・スクール（FFS）は、観察・発見・発展をベースとした参加型の学習手法です。本プロジェクトは対象地域であるエチオピア国オロミア州の三郡で、FFS手法を使って、住民と農業局の持続的自然資源管理能力の強化を目指しています。

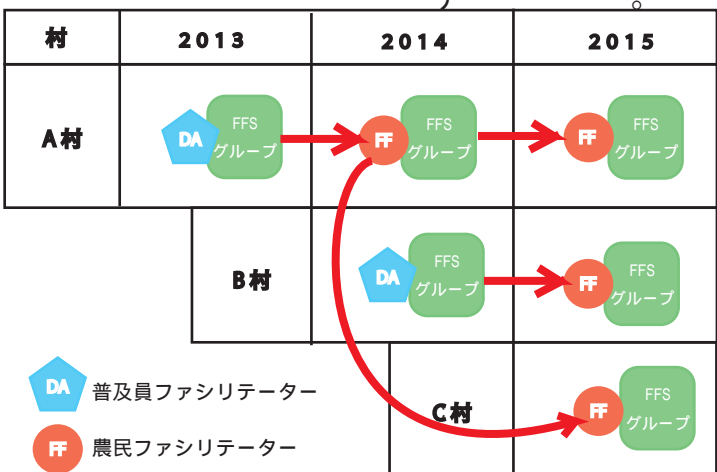
二〇一五年十一月に三郡それぞれで、卒業式が行われました。卒業式は、一年半の間にFFSで学んだ成果について、卒業生自身が成果をまとめ、周辺住民や郡農業事務所職員に伝える機会となりました。発表では、グループメンバーが雨季・乾季の比較試験の活動から学んだ結果が報告されました。乾季の活動は様々な樹種の育苗、雨季は植樹や飼料、野菜、穀物の栽培を行ないました。発表者の様子からは、自分たちが実践の中で経験した、失敗と観察から導き出した結論への自信が表情に見えました。大勢の前に立つ気恥ずかしさから緊張している発表者もいましたが、参加者からの質問には、きちんと一つひとつ誇らしげに返答していききました。中には、あげられた質問に対して、発表者以外のグループメンバーが、俺も、私もと、具体的に説明して止まらなくなる場面もありました。自分たちが経験したことを自分の知識のみにするのではなく、他の人に伝えたくなる。ここがFFSの強みだと改めて感じるやり取りでした。

発表の後には、卒業生、参加者が一緒になって伝統のダンスを踊り、卒業生が準備を整えたインジェラ（エチオピアの主食）に舌鼓をうち、ファーマー・エキスパートの卒業をお祝いしました。

F

FSには、講師も指導者もいません。ファシリテーターがグループメンバーの自主的な発見と学びを促す役割をします。卒業式の裏側には、陰の立役者であるファーマー・ファシリテーターの存在がありました。このFFSファシリテーターは事業開始当初、郡農業局の普及員が担っていました。しかし、今回卒業を迎えたグループのうち一部のファシリテーターは、農家の方が担当しました。図にあるように、ファーマー・ファシリテーターはFFSグループメンバーから選出されます。つまり、一年間メンバーとしてしっかりとFFS実施方法を学んだ人材がファシリテーターとなります。さらに、選ばれるにはグループメンバーから推薦されグループ内で合意を得なければなりません。この過程を経て、知識・技能を身につけ、地域住民からも信頼された人が選ばれる。一グループからは男女一名ずつ選出され、現在

までに一八名が育成されました。村に根付いた人物で、かつ村人から信頼されるファーマー・ファシリテーターの存在は、カウンタートパートであるオロミア州農業局も注目しています。農業普及において今後の活躍が期待される人材です。



卒業生の約一年半にわたる、活動開始から卒業までの道のりを簡潔に振り返ります。

1 二〇一四年五月、住民を集めてメンバー選定のための「FFFS プロモーション」を実施。目的と活動内容を説明した後に、くじ引きにて公平にメンバーを選定しました。男女比は1対1になるように配慮しました。

2 グループメンバーが選出された後には、グループの組織づくりを行ないました。議長・書記・会計役などを決めるとともに、グループ内にサブグループを作り、皆がワークに参加できるように工夫しました。

3 FFSは「School without Wall（壁のない学校）」とも呼ばれます。特別な資材を必要とせず、どこでも学びの場が変わります。多くのグループは比較実験を行う圃場の近くに、木のポールを使って簡易の学校をつくりました。

4 雨季活動の前には、メンバーが五つの活動から投票と話し合いで自分たちが興味のある活動を選択しました。選択肢は果樹や飼料栽培、樹間での作物栽培（アグロフォレストリー）などです。



1



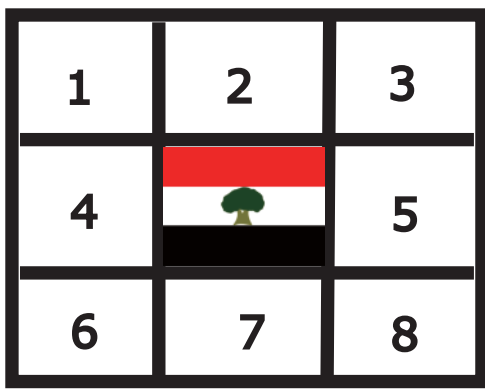
2



3



4



5



6



7



8

5 活動選定の次には、圃場の比較実験デザインを作りました。そのデザインに基づいて、区画をプロットに分けました。

FFFSは参加者自身が観察し発見することを大切にします。圃場は必ず比較ができるようにデザインし、品種や処理を変えた区画を数種類つくりました。

6 乾季は、様々な樹種の育苗を行ないました。どのような樹種を選ぶかは、プロジェクトからも推薦はしましたが、メンバーが話し合って決めました。対象地域は半乾燥地であり、プロジェクトを通じて初めて育苗活動を行なう農家がほとんどでした。

7 AUSA (Agro - Eco System Analysis) は、FFFS手法の鍵となる要素のひとつです。AESAを通してメンバーが成長過程の作物を観察したり計測したりして問題を見つけ、対策を話し合い、解決していきましました。

8 卒業前に一年半の活動を振り返り、比較実験の結果をまとめたり、収益分析などを行ないました。結果は卒業式で周辺住民にも共有しました。